

# お わ り に

## 平成 15 年度審議会評価を終えて

今春の統一地方選では、女性県議会議員が 1 名から 2 名となり、市町村でも、新人女性議員の進出にめざましいものがありました。政策・方針決定の場における新たな動きへとつながることを期待しています。

一方では自殺者・引きこもり者の約 7 割を男性が占めるという状況も明らかになりつつあり、社会の中の新たな課題が見え始めてきました。

このように時代が大きく変わりつつある中で、審議会が外部的な視点で県行政について評価を行い、次の施策展開につなげるというのは意味あることだと思っています。委員全員がそのことを念頭におき、6 月の県の自己評価の公表を受けて、短期間で集中的に議論を進めました。

もちろん、十分な検討ができなかった部分も残りますが、かなり踏み込んだ内容にすることができたと思っています。

今まで、県議会議員の皆さんや大変多くの県民の皆さんと協力して、条例制定、基本計画策定と取り組んできました。

その時々熱心なやり取りを受け、非常にたくさんの皆さんが心強い応援団となって県行政を支えていただいていると聞いています。

皆さんの支援が成果となって徐々に現れてきていると思われまます。今年、始まった評価にあっても、評価結果そのものだけでなく、そのプロセスの中で議論を広げ、望まれる社会像を皆さんと一緒に少しずつ明らかにしていければと考えています。

三重県男女共同参画審議会 会長 武村 泰男

## 平成 15 年度審議会評価を受けて

このたび、三重県の男女共同参画施策の実施状況に対して三重県男女共同参画審議会から評価と提言をいただきました。7、8 月の 2 か月という厳しい日程の中で、県民の皆さんからのパブリックコメントを踏まえ、熱いご議論を重ねられ、50 項目の提言をまとめていただきました。

この審議会による評価結果を真摯に受けとめ、関係部局と連携して、提言を施策につなげてまいりたいと考えております。

三重県生活部長 渡辺 和己